



コラム 派遣研究員レポート

名前	派遣先	派遣期間
于 飛	北京師範大学文學院 民俗学与文化人類学研究所	2012年11月1日～11月21日
姚 琮	ブリティッシュコロンビア大学 アジア学科	2012年11月1日～11月20日
須崎 文代	フランス国立高等研究院 東アジア文明研究センター	2012年10月19日～11月7日
王 新 艶	中山大學 中国非物質文化遺産研究中心	2013年2月18日～3月10日
李 徳雨	サンパウロ大学 日本文化研究所	2013年2月17日～3月9日

北京の“非物質文化遺産” —“毛猴” (hairy monkey)

于 飛

(外国語学研究科中国言語文化専攻 博士後期課程)



一. 今回の現地研究のプロセス

2012年11月1日から3週間にわたり非文字資料研究センターの派遣研究員として北京師範大学を訪問し、北京の民俗工芸の“毛猴”について調査した。まず北京師範大学の図書館で“毛猴”について様々な資料を調べ、その後首都博物館、西城区非物質文化遺産展示センター、東城区非物質文化遺産展示センター、天津民俗博物館、北京地壇民俗文化節（祭り）を訪問した。さらに、“毛猴蕭”の伝承者である蕭掌柜氏にインタビューをした。

二. 北京の“非物質文化遺産”—“毛猴” (hairy monkey) について

“毛猴”という北京の民俗芸術は北京出身の人さえよく知らない。この北京特有の民間芸術は、清朝の末期に産まれた。しかし、様々な原因により、次第に我々の視野から消えていった。現在では、この芸術を継承する人は非常に少ない。継承者の代表人物は87歳の高齢の曹儀簡さんである。

実際の“毛猴”は自然界の小さい猿であり、機敏で活発な動物である。芸術家はこの猿の形と人間の知恵を完璧に結合し、北京の風土と民俗を生き生きと展開している。

“北京毛猴”は“中国蟬蛻”とも呼ばれている。その学名は“昆塑”であり、虫を用いる彫塑の意を表す。

“毛猴”を作る原料はセミの抜け殻、木蓮の花芽、白芨（ラン科の多年草）とアケビの四種類の漢方薬である。（図1参照）ある文献によると、その作品の題材は五つある。一つは伝統的な題材であり、北京の風土などを表す。二つ目は歴史の題材であり、歴史上の戦争場面など

を表す。そして、三つ目は現代の題材であり、現在の日常生活などを表す。四つ目は風刺の題材であり、現実社会の問題点などを表す。五つ目は、歴史物語や演劇物語の題材である。（図2参照）

そこで、なぜ“毛猴”を作る原料は漢方薬であるのかという疑問が浮かぶ。この答えについて、次のような民間伝説がある。その伝説によると、清朝の末期に“南庆仁堂”という薬局があった。ある日、この小僧が店主にひどく叱責されたが、生計のため何も言わずじっと我慢した。深夜に彼が一人で生薬を整理としていたら、突然アイデアが思い浮かび、目の前の生薬を利用して、



図1 “毛猴”を作る原料



図2 “花果山”という作品



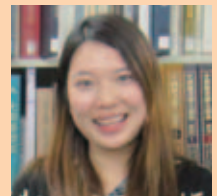
図3 文玩核桃（賞玩クルミ）

店主の姿を作ろうと思いついた。そこで、木蓮の花芽を店主の体とし、更にセミの抜け殻の鼻部分を頭とし、セミの抜け殻の四肢をそれぞれ両手と両足とし、最後に白皮でくっつけた。このようにして、最初の“毛猴”は産まれた。

三. 結びにかえて

今回、“毛猴”についての現地調査を通して、利益の少ない“非物質文化遺産”に対する保護の必要性を感じている。それは“毛猴”が大人気の“骨董”や“文玩核桃（賞玩クルミ）”（図3参照）などと比べて、価値が上がらなると見なされているからである。従って、現在“毛猴”に興味を持つ人は非常に少なく、この工芸ができる人も極めて少ない。今回訪問した首都博物館、西城区非物質文化遺産展示センター、東城区非物質文化遺産展示センター、天津民俗博物館および北京地壇民俗文化節（祭り）の五ヶ所では、“毛猴”の作品は他の展示品よりもはるかに少なかった。また、“毛猴蕭”の伝承者の蕭掌柜氏に「今“毛猴”の作り方を学びたい人は多いですか。」と質問したとき、「非常に少ない。うちの家族さえやる気がない。」との答えが返ってきた。この現状に基づき、“毛猴”のような利益の上昇しない“非物質文化遺産”を如何にして継承しつづけるのかという問題はとても深刻であると思う。このような課題が非文字資料研究の今後の研究テーマのひとつになることを望んでいる。

カナダ日系人の移民史 —第二次世界大戦まで



姚 琮

（歴史民俗資料学研究所 博士後期課程）

この度、2012年度神奈川大学非文字資料研究センターの派遣研究員として、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科へ訪問し、2012年11月1日から20日まで、「カナダ日系人の移民史—第二次世界大戦まで」というテーマで研究を行った。その間にブリティッシュ・コロンビア大学アジア学科の許南麟教授とチューターのニコレット・リーさん、ホームステイの家族の方に大変お世話になり、この場を借りて感謝の気持ちを申し上げます。

私は今回の研究テーマについて、主にブリティッシュ・コロンビア大学図書館とバンクーバー市立図書館に所蔵する資料を探し求めた。

（一）初期のカナダ日系人

カナダは、三つの民族的要素を持ちながら建国された。第一は、北からアラスカを経て定住した先住民族の「カナダ・インディアン」である。第二は、東から大西洋を

経て移ってきたフランス人たちである。第三は、南からアメリカ合衆国より避難してきたイギリス人たちである。そして、フランス人、イギリス人の後を追うかのように、ドイツ、イタリア、ウクライナ、オランダなどの



UBC キャンパス